

第28回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成31年3月14日（火） 9：59－11：55

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、薬師寺座長代理、小野田委員、倉本委員、竝木委員、藤井委員、
松本委員、山崎委員

(2) 有識者

常田 国立天文台長

(3) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

行松審議官、須藤参事官、山口参事官、森参事官

(4) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

藤吉課長

倉田室長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

國中理事

国際宇宙探査センター

佐々木センター長

4. 議事要旨

(1) 宇宙科学・探査プログラムの考え方について

まず、事務局から、資料1-1及び1-2を用いて、宇宙科学・探査プログラムの考え方について説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

○JAXA宇宙科学研究所のプロジェクトに、様々な大学から多くの学生が参画し、他で得難い経験ができるような仕組みの充実が必要。

○（5ページ目の）フロントローディング対象技術領域候補は、あくまで例示であり、ここに挙げられたものに限定されるわけではないことに注意した発信が必要。

○フロントローディング対象技術領域候補は従来からやられている（工学系の）研究テーマにも見えるので、フロントローディングという別の概念で行う内容についてしっかり説明していくことが重要。

○フロントローディングの対象の選定や、開始の判断については、ISAS執行部の裁量は重要。コミュニティの意見に追従するだけではなく、ISASとして裁量を持つ意味でも、ISAS所長裁量経費の確保等の視点も重要ではないか。

○今回取りまとめるこのプログラム化に関する資料について、科学コミュニティが、ボトムアップに関する否定とネガティブに捉えないよう、ISASはコミュニティに丁寧に説明することが必要。

○フロントローディングで得られた技術の、大学等への展開という視点も重要。

これらの意見を踏まえた「宇宙科学・探査プログラムの考え方について」の修正は、微修正の範囲であることから、座長に一任となった。

(2) 宇宙科学・探査の取組状況について

JAXAから、資料2を用いて、宇宙科学・探査の取組状況について説明があった。

委員からは、

○テニユアトラック型の教員の採用が遅かったようなので、次年度はより早い時期での採用となるよう意識すべき。

といった意見があった。

(3) 宇宙科学・探査の今後の進め方について

JAXAから、資料3を用いて、宇宙科学・探査の取組状況について説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

○戦略的中型、公募型小型の規模・頻度等に関する考え方を改めてISASを中心に検討してほしい。

○ISASが現在検討中の宇宙科学・探査ロードマップの改定について、本委員会に報告してもらいたい。

(4) その他

文部科学省から、資料4-1を用いて国際宇宙探査の検討状況について説明があったのち、JAXAから、資料4-2を用いて、国際宇宙探査関連ワークショップ・シンポジウム開催結果について説明があった。

委員からは、

○Gateway・国際宇宙探査への参加について正式了解はしていないとの認識。参加の是非について、本委員会でも集中的に議論をする場を設けるべきではないか。

といった意見があった。

以 上